

教育委員会



田ノ口小学校

意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる児童の育成

校長 石川 恭弘

田ノ口小学校は、明治19年に尋常小学校として設立されたのが前身で、大正3年度には、私小説作家の上林暁が卒業しています。

歴史と伝統のある地域で、学校のすぐそばには田ノ口古墳があります。



田ノ口古墳

本校は今年度、「意欲的に活動し、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を学校の教育目標に掲げ、児童数70名、職員数12名でスタートしました。

- ① 目指す児童像として、
- ② たくましい子ども
- ③ のびのびと表現する子ども
- ④ くじけない子ども
- ⑤ ちからを出しきる子ども

を掲げています。

目指す学校像として、

- ① あいさつの響きあう学校
- ② いじめのない、生き生きとした学校
- ③ つくしい学校
- ④ えがおいっぱい溢れる学校
- ⑤ おもいやりのある学校

を掲げています。

目指す教師像として、

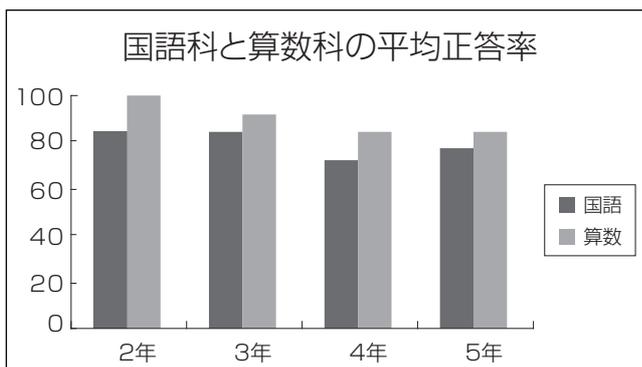
- ① 教育公務員として自覚を持つ教師
- ② 専門職としての資質・指導力の向上に努める教師
- ③ 児童理解に努め、優しさとお厳しさのある教師
- ④ 学校全体を考え、一致協力して取り組む教師

を掲げています。

黒潮町では、子どもたちの基礎学力の定着と学力の向上を具体的施策に掲げており、本校でも学力向上に向けて取り組んできました。

子どもたちが昨年度の学習の内容をどのくらい理解しているか、学んだことがどのくらい身についているかを調べ、標準学力調査（到達度把握検査）の結果を見ると、算数科の正答率に比べ、国語科の正答率が低く、国語科に弱さがあることがわかりました。

国語科と算数科の平均正答率



◆ 校内研究の取り組み

平成19年度の結果をふまえて今年度も昨年度に引き続き、国語科で取り組むことにしました。校内研究のテーマを「基礎学力の定着と自ら学ぶ学習態度の育成」(「わかる・できる」を目指した授業づくり)と設定し、①授業力の向上、②基礎学力の定着、③家庭学習の定着に重点をおいて研究を進めています。

◆ 具体的な取り組み

1、授業力の向上
学校の教育活動の中心は授

業です。子どもたちがその授業で「わかる・できる」ようになるために教員の授業力の向上に取り組んでいます。

授業力の向上を図るため、全担任が、外部から講師を招いて国語科で研究授業を実施しています。

研究授業を実施する前の指導案の検討の時や研究授業が済んだ後には講師に指導していただいています。今年度は指導案の検討の時に、模擬授業を実施し、研究の充実を図っています。

研究授業の際には、授業の後、子どもたちにふりかえりカード(授業評価表)に記入してもらっています。また、研究授業を参観した教員も参観者用の授業評価表に記入し児童用と参観者用の授業評価を集計し、研究授業の反省に活用しています。

参観日の時にも、保護者に授業評価表に記入していただき、授業の振り返りができるようにしています。

2、基礎学力の定着

基礎学力の定着を図るために本校では「基礎・基本」を「読み・書き・計算」と捉え、

具体的な到達目標(必達目標)を設定し取り組んでいます。また、授業中などの約束事(学習規律)が担任によって変わらないように、学校として共通した学習規律(学び方の基礎)を設定して取り組んでいます。

3、家庭学習の定着

学習したことが確実に定着するためには、家庭学習が不可欠です。家庭学習の習慣化を図るために各学年で「家庭学習の手引き」を作成し、家庭に配り、保護者に協力をお願いし、自主的な学習態度の育成を目指しています。

また、保護者との連携を図るために、毎学期末に通知表を資料にして、担任と保護者との教育相談(個人面談)を実施しています。



南郷小学校

自分で考え、行動や判断で
きるゆるぎない学力や生活
力を身につけた子どもたち
の育成に向けて

校長 黒岩 譲

●学校の概要

児童数は48名、少子化の影響による児童数減は、本校も例外ではなく、今年度から国の学級設置基準では複式学級編制となるべき学年が生じることとなりました。

今年度については、校内裁量で複式学級解消の措置を講じながら教育活動に取り組んでいるところです。

子どもたちは、全体的には真面目であり、仲良く、元気に、楽しく学校生活を過ごしています。学力面の達成状況では、昨年度末に本校独自で実施した到達度学力検査結果（下段別表）からわかるように国語科と算数科の2教科において、全ての学年で全国平均と同等かそれを上回っています。しかしながら、その一方で、今年度の始めに実施した2年～5年の児童を対象とした標準学力検査では、全国

【別表】
平成19年度到達度把握検査(CRT)の結果より

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	1.07	1.02	1.02	1.02	1.01	1.05
算数	1.04	1.13	1.09	1.04	1.00	1.05

※全国得点率を「1」としたときの得点率を表しています。

平均を上回る学年が少ないという結果となっています。このことは子どもたちが問題のタイプが異なれば、同じように力を発揮することができないということであり、結果を真摯に受け止め、どのようなタイプの問題にも対処できる確かな学力形成に向けた取り組みを実践していきたいと考えています。また、児童の中には、平均的な学力が身につけていない子どももいるので、学びの習慣化を図りながら学力向上にも力を入れていきたい。一方、生活面での課題を抱えた児童がおり、定期的にデータを取りながら基本的生活習慣の改善など家庭や学校の中で生活向上を図っていききたいと考えています。

◆学力定着に向けた取り組み

今年度は、研究主題を「豊かな心をもち、主体的に学ぶ子どもたちを育てる」と設定し、国語科を中心に位置づけながら、以下の記述のように全ての教育活動と関連させながら知・徳・体の3つのバランスのとれた学力定着に向けた取り組みを進めています。

- 研究授業および授業改善
- 朝マラソン(ランランタイム)
- 地域の人材活用(後述)
- 学校カウンセリング
- チャレンジタイム(国語・算数)
- 家庭学習の習慣化
- 効率的な授業時数の確保(金曜日の7校時設定)
- 算数基礎学習タイム(10分間)
- 1日学校開放日
- 学校参観日アンケート

◆地域の教育力に支えられて育つ子どもたち

本校では、さまざまな形で地域からの教育力の支援を得て取り組んでいます。子どもたちにとっても教職員にとっても多くの方々々に学校へ足を運んでいただくということは、刺激にもなり、適度な緊張感を与えてくれるように思います。そして、何よりも学校だ

けでは到底できない子どもたちの活動を支えていただけるとのことです。その主なものを紹介します。

①読み聞かせボランティア

毎週金曜日の朝会活動の時間に各学級で本の読み聞かせをやっていたいただいています。取り組みが始まって10年近くの活動の歴史を積み重ねています。

②クラブ活動の指導

金曜日のクラブ活動の時間に合わせてペタンククラブ、囲碁・将棋クラブで子どもたちに指導していただいています。

③誠心園とのふれあい活動

「大方誠心園」の方々と花壇づくりや「誠心園祭り」のボランティアなどの交流活動を通して、障がい者理解を深めるようにしています。

④米作り体験学習

学校近くの田んぼを借り、農業に従事されている保護者の方に特別講師をお願いして5年生が中心となつての米作り体験学習に取り組んでいます。

◆地域の環境に目を向けた活動
今年度、四万十森林管理署

の方から、入野松原を教育活動に活用して欲しいという依頼がありました。環境教育が学校教育の中でも重要視されてきている状況を考えて引き受けることとしました。早速、子どもたちは、松原に親しみやすい「ゆめの森」という名前をつけています。現在、それぞれの学年で、計画を立て、入野松原を活用した環境学習を進めているところです。

去る5月26日には、1年、2年、3年が松原にのけて、森林管理署の方の協力を得て、松原の役割、ゴミ拾い、ネイチャーゲームなどの体験学習で半日過ごすことができました。子どもたちにとっては、普段何気なく見過ごしている入野松原だと思えますが、この活動を通して、身近な環境にも目を向け、気づき、考え、行動できる子どもの育成につながるべしと願っています。

